

～若者が帰り、遊休農地が活力ある大地に～

綿内東町地区農地中間管理機構関連農地整備事業実行委員会

農業競争力強化基盤整備事業「綿内東町地区」



取組のポイント

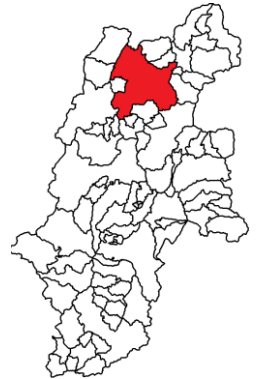
- ①「若者が帰り、遊休農地が活力ある大地に」を目指し、本委員会が地域をリード。魅力ある果樹産地の維持・発展を実現。
- ②基盤整備事業実行委員会を設置し、機械作業の効率を高めるとともに作業の安全性を高める基盤整備を実施。
- ③高密植のりんご新わい化栽培等の新技術の導入による早期成園化と品質・収量の向上を実現。
- ④耕作放棄地の解消。若手農業者を含む農業後継者の確保。

取組の経緯と課題

- 高齢化による離農及び担い手不足。
- 急傾斜で狭小な農地による非効率な農作業と作業の危険性。
- 地域の5割以上の農地が耕作放棄。
- 果樹の改植による成園化までの期間短縮。新わい化栽培は早期成園化が可能であるが灌水も必要。

推進組織の概要

代表：駒村 和久
設立年：平成30年
農家数：54人
主要作物：りんご、ぶどう



長野県長野市

課題への対応

- 地域の有志がリードし、綿内東町地区農地中間管理機構関連農地整備事業準備会を設立。さらなる事業推進に向け、実行委員会に移行し、事業を実施。
- テラス状に整備することで勾配を緩くし、機械作業の効率を高めるとともに作業の安全性を高める基盤整備を実施。
- 早期多収で省力化が図られる「高密植のりんご新わい化栽培」や「県オリジナル品種」等への改植を進めた。
- 効率的で収益性の高い果樹経営への転換ビジョンを示すことで新規就農者等の担い手を確保。



りんごの新わい化栽培
と高所作業台車

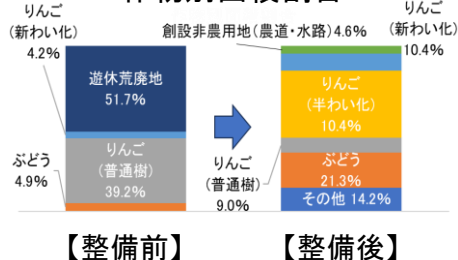


スピードスプレーヤー

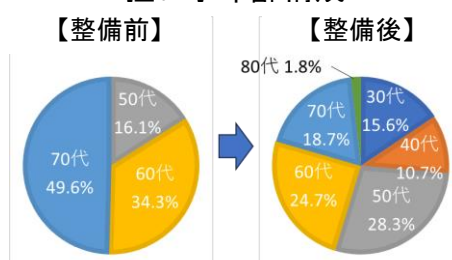
取組の成果

- 従前3-4a→事業後20-30aの緩勾配ほ場となったことで、機械化が可能となり、作業が大幅に効率化。安全性も確保。
- 区画整理に加えて灌水施設も整備することで、高密植のりんご新わい化栽培の導入が可能となり、早期成園化と品質・収量向上も実現。高品質・高単価なぶどうの新品種も導入。
- 基盤整備によって耕作放棄地を大幅に解消（50%以上）。
- Iターンや若手農業者等の新たな担い手を含む農業後継者の確保。

作物別面積割合



担い手年齢構成



事業概要

地区名：綿内東町地区
事業種：農業競争力強化基盤整備事業農地中間管理機構関連農地整備事業
関係市町：長野県長野市
受益面積：13.8ha
工期：令和元年度～令和7年度
事業目的：区画整理
主要工事：整地工 13.8ha
排水路工 1.5km
道路工 2.3km
畑かん施設 13.8ha